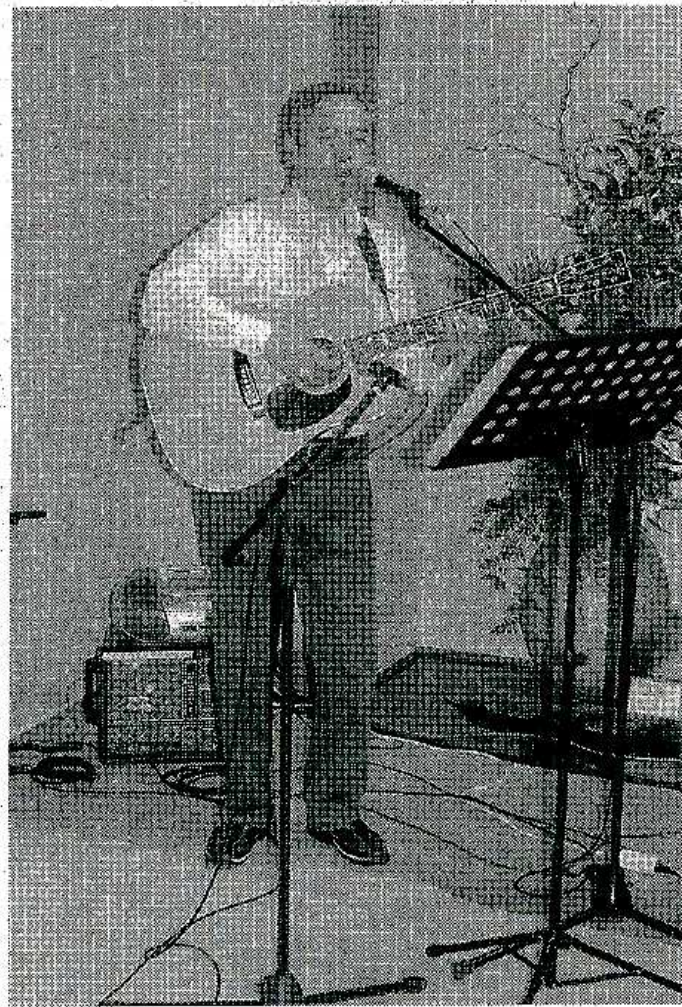




自慢の歌声で自ら宿泊客をもてなす柴野社長

もてなし、 続け 500 回

皆生温泉旅館 社長のフォークライブ

皆生温泉の旅館「皆生菊乃家」(米子市皆生温泉四丁目)で、柴野憲史社長(五)も自ら弾き語りを披露する名物イベント「フォークソングライブ」が、通算五百回を達成した。同温泉のPRになればと、もてなしの心を胸

地元PRにも一役

に歌い続けた柴野社長は、千回目のステージを目指し奮いを新たにしている。

学生のころから趣味でギターを演奏する柴野さんは、二〇〇三年から館内ロビーでライブ活動をスタート。フォーク全盛時代の名曲

歌声喫茶をほつつかつとさせる。

社長業のほかにも、皆生温泉旅館組合長として多忙な日々を送る柴野さん。「定期ライブは体力的にもきつく、途中、何度やめようと思ったか分からない」と、五百回に至るまでの長く険しい道のりを振り返る。それでも続けてきたのは、「ライブを通してお客さまと直接触れ合える」からだ。

五百回目の記念となる十一日のライブを聴いた宿泊客で、奈良県大和高田市から訪れた五十代の夫婦連れは「旅館でこんなすてきな生演奏が聴けるとは思わなかった。とても楽しかった」と大絶賛。柴野さんは「一人で多くの人が皆生温泉を訪れるように、今後も技術を磨いていきたい。将来は、地域のあちこちで音楽の生演奏が聴けるようなまちづくりができれば」と抱負を語っていた。

現在、ライブは土、日曜を中心に開催。併せて、宴会客の前で歌う「お座敷ライブ」も精力的に展開する。